

M16CシリーズおよびR8Cファミリ用 C/C++コンパイラパッケージ ご使用上のお願い

M16CシリーズおよびR8Cファミリ用C/C++コンパイラパッケージの使用上の注意事項を連絡します。

- 統合開発環境High-performance Embedded Workshopでツールチェーンのバージョンを変更する場合の注意事項

1. 該当製品

- M16CシリーズおよびR8Cファミリ用C/C++コンパイラパッケージ
V.5.20 Release1~V.6.00 Release 00

2. 内容

High-performance Embedded Workshopでツールチェーンのバージョンを変更した場合、指定したオプションのパラメータの最後のダブルクォーテーションが削除される場合があります。

例： -L -as30 "-S" が -L -as30 "-S になる。

この状態でビルドを実行するとコンパイル時に、ワーニングまたはエラーが発生します。

3. 発生条件

以下の条件をすべて満たす場合に発生します。

- (1) 最後がダブルクォーテーションで終わるオプションを

以下の手順で設定している。

- a. メニュー「ビルド」->「Renesas M16C Standard Toolchain」をクリックして「Renesas M16C Standard Toolchain」ダイアログを表示する。
- b. コンパイラタブで、「その他カテゴリにあるユーザ指定オプション」テキストボックスに、最後がダブルクォーテーションで終わるオプションを入力している。

例: -L -as30 "-S"

(2) ツールチェーンのバージョンを変更している。

ツールチェーンのバージョンは、メニュー「ツール」->「ツールチェーンバージョンを変更」をクリックして変更します。

最後のダブルクォーテーションが削除されたまま、ビルドするとワーニングまたはエラーが発生します。

ワーニングの例：

C1005(W) Can't specified '-finfo' with '-S' option. '-finfo' was ignored.

注：指定するオプションによりメッセージは異なります。

4. 回避策

該当するオプションのうち、以下のオプション以外は「その他カテゴリにあるユーザ指定オプション」テキストボックスから削除して、専用の指定場所で指定してください。

アセンブルコマンドのオプション (-as30オプション)

アセンブルコマンドのオプションを使用している場合は、ツールチェーンのバージョンを変更した後、「その他カテゴリにあるユーザ指定オプション」テキストボックスを確認して、オプション文字列の最後のダブルクォーテーションを追加してください。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。